

宿主の托卵対抗手段の進化とメタ集団構造

○ 高須夫悟 (奈良女大・理) , E. Røskaft, A. Moksnes, B.G. Stokke (NTNU, Norway)

鳥類の育児寄生（托卵）においては、多くの場合、托卵の受け入れは宿主の繁殖価の大幅な低下を意味する。こうした托卵による淘汰圧により、卵認識能力・排除行動といった宿主による托卵対抗手段が進化すると考えられる。従来の数理的研究は、宿主が一様な托卵圧を受けるという仮定の下での托卵対抗手段の進化を論じているが、現実には、全ての宿主個体に托卵圧が均一にかかるわけではない。本研究は従来のモデルを拡張し、不均一な托卵圧を受けるメタ集団構造における宿主の托卵対抗手段の進化を数理的に取り扱い、現実系における托卵対抗手段の進化について議論する。

